

4月発進、時間や利用のしやすさ改善 町営バスと乗り合いタクシーが便利に

昨年8月から実証実験スタートした町内公共交通の新しい運営システムが、4月、半年間の試行を経て、より利用しやすい地域公共交通システムへ見直し、2年目の実証段階がスタートします。町営バス、乗り合いタクシー混合運行の新たな町内公共交通体系は、第2段階の実証実験を経て本格運用への改善点解決を探り、利用しやすい町内公共交通システムとして本格実施移行する計画です。

2月10日役場で開いた「東川町地域公共交通活性化協議会の「東川町地域公共交通活性化・再生総合計画」で2年度目の実証実験実施内容が決まりました。

内容は(1)バスについて①3路線の運行時刻のうち、午後5〜6時台の運行時刻見直しと増便②地域公共交通システムの維持のため、乗車料金の見直し検討③利用のない運行区間、ルートの変更を検討④年2回の運行見直し実施の検討(2)乗り合いタクシーについて①日中時間帯の時刻見直しと増便②予約方法の弾力化(出発時刻の1時間前まで受け付けを可能にする条件あり)③旧3運行区域を1区域に統合④中心市街地区での乗降場所追加(4カ所増の12カ所)⑤年2回運行見直しの検討—などを実施するというものです。

また観光活性化対策として、今後「いで湯」号と町営バスとの乗り継ぎ

サービス、旭川空港經由ルートの検討をすることになりました。

「町地域公共交通に関するアンケート」結果(昨年12月町中心部、温泉地区を除く1千219世帯を対象、回答数は455、回収率は37.3%)いずれも一般対象、別途7老人クラブ会員の回答172(結果略)。

回答が最も多かったのは、町営バスを利用する機会が多い70歳以上の世代で32%でした(以下、一般対象の回答から分析)。そのうち、中心市街地から1〜2キロ以内圏では60、70歳以上からの回答が8割を超え、公共交通手段について高齢者世代の関心の高さがうかがわれます。

昨年8月からスタートした新運行ダイヤ、時刻見直しを「知っていた」という回答は65%。「知らない」割合は3割に達しました。50歳代以上の年代では7割が「知っている」と答え、中

心市街地から遠い方の認知度が高くなっています。

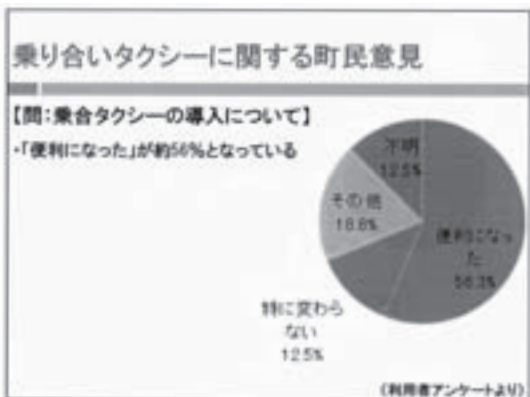
町民バスは、平日と土曜日の日中乗り合いタクシー方式(予約制)に変更になりました。この変更を「知っているが登録していない」という答えが最も多く70%に達しました。主な利用層である70歳以上の方は「知っており登録している」と回答した割合が多くなりました。しかし約6割は「知っているが登録していない」と回答しています。

公共交通機関について「どのように改善されたら利用しますか」との問いでは、「運行時刻が利用しやすくなったら」32%、「路線が利用しやすくなったら」21%が回答の上位を占めました。

「高齢になったら」「(車の)運転・行動に不安を感じたら」という回答もあり、潜在需要は高いようです。乗り合いタクシーに関して「当日予



▶昨年導入した町営バス新型車両



約ができたならば「約40%」「日曜、祭日の運行がある」とい「約20%」「利用できる路線(地区)が限定されなければよい」約10%、「申し込み時間が長くなるとよい」(現在午前9時から午後7時まで)約6%、「中心市街地の乗降場所が増えたらよい」約5%との回答がありました。